

優良飼料作物 (4)

スーダングラス

暖地の裏作はエンバク、イタリアンライを始め、各種飼料作物が導入された今日、冬期間の青刈飼料は十分確保できるようになったが、夏期高温の夏枯れ時に青草の不足になやむことが多い。ここに紹介するスーダングラスは暑熱、乾燥に極めて強く、夏の暑い時期にグングン生育する暖地向一年生作物であります。



量に含み、葉枯病に弱い難点がありましたが、新品種バイパーは青酸含量少なく、相当な耐病性を持ち、ティフトは強耐病性品種として注目を集めており、共に優良飼料作物の一つです。
(写真下はスーダングラスと大葉つるまめの混播状況)



冷涼湿潤地には不適ですが、寒地でも夏期高温であればよく生育し、寒地で二〜三回、暖地では四〜七回刈取りができ、一〇畝寒地で六〜七、〇〇〇キ、暖地で二、〇〇〇〜一八、〇〇〇キの収量があり、たしかに「一万貫牧草」の名にふさわしい多収な青刈作物です。
家畜の嗜好もよし、栄養価も高いものですが、大葉つるまめ、カウピー等纏絡するまめ科の青刈類や青刈大豆と混播して、量質共に増加を計ることをお奨めします。
スーダングラスの在来は青酸を多

家畜ビート

寒冷地冬季の生鮮多汁飼料として、暖地の夏枯時の多汁飼料として、家畜ビートは、もはや欠かせない貴重な根菜であることは言うまでもありません。根部はビタミン類、カルシウム分の豊富な健康飼料、頸葉部(トップ)は栄養価の高い良質飼料、共に理想的な優良飼料です。家畜ビート多収のコツは、深耕しと十分な既肥の施用、病虫害防止のための薬剤散布です。一〇畝当り少なくとも五、〇〇〇キ以上収穫しましょう。



ルタバガ

排水不良地、酸性地などの不良土壌、冷涼湿潤、濃霧地帯などの不良気候条件下にもよく生育するルタバガ(スニードンかぶ)は、主に北海道東・北部の不毛地で利用されておりましたが貯蔵性が根菜中最高であることから、翌春の多汁飼料として各地で用いられている。

また暖地では裏作として秋まきし、翌春ビート、かぶ類の欠乏した後に貴重な多汁飼料として利用されていて、品種も耐病系のウイル(ヘルムスパーガー(グリーントップ)、マゼステック一号(パーブルトップ)、耐病系で根部の円滑なスムーズラウンド(パーブルトップ)などの優良品種がある。

